

痛み止めの外用薬



皆さんは、つらい腰痛や関節痛、筋肉痛の経験はありませんか？今回はそんな時に患部に直接使う「痛み止めの外用薬」について紹介致します。

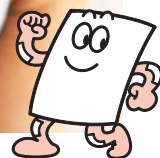
シップや塗り薬などの「外用薬」に対して、飲み薬は「内服薬」と呼ばれます。外用薬にはどのような長所と短所があるのでしょうか。

長所

- 痛いところ(患部)に直接効く。
- 飲み薬と違い、腎臓や肝臓、胃への副作用が少ない。
- 薬を多く飲んでいる患者さんも、飲み合わせの問題が少ないため使いやすい。

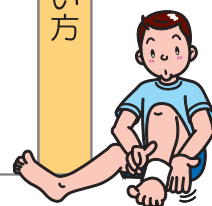
短所

- 内服薬より効き目が弱いことが多い
- 皮膚が弱い方や、傷がある場合には使いにくい



軟膏剤		貼付剤		種類	特徴	使い方	
<ul style="list-style-type: none"> ● スティック剤 ● スミルスチック <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● クリーム剤 ● インテバンクリーム <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● テープ剤 ● ヤクバン ● モーラステープ <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● パップ剤 ● ゼボラス ● ロキソニンパップ ● セルタッチ <p>など</p>				<ul style="list-style-type: none"> ● 塗っていても目立ちにくい。 ● 塗るときにマッサージ効果がある。

※当院で扱っているお薬を例に挙げています。使い方は一般的な目安です。使い方がよく分からない場合は、医師・薬剤師におたずね下さい。



一口に外用薬と言っても、このようにお薬の種類は色々、そして使い方も色々です。お薬の特徴と正しい使い方を知って、つらい痛みにサヨナラしましょう。